

天地人

10	9	8	7	6	5	4	3	2	1
沈黙の残業にある残暑かな	虫鳴いて心の闇と共鳴す	おのが葉へ光返せり秋菰子	紫煙めく闇ストロベリーの稲光	去りゆきし人の足音秋彼岸	秋雨の森林灰色の夜明け	夕暮を背負ふ通天閣の秋	南柯誌に付筭残暑の妣の部屋	雑用が減るは増える残暑かな	目葉の目玉をそめて秋暑し

選句用紙

選者名

七
月

特 No.1	特 No.2	特 No.3	4	3	2	1
遺 されし季寄せに付箋 秋灯し	端 座して夏を見送る 奥座敷	秋 蟬や生家無人にして 帰る	雑 用が減っては増える 残暑かな	白 桃の産毛確かめ一丁 買う	目 薬の目玉をそれて秋 暑し	売 り切れの張り紙ひこつ 秋の暮れ

選句用紙

選者名 山下疾風

1	畦切りの鍬 くわ 一振や落し水
2	子を引く手ときに緩みて残暑 ざんしよ かな
3	半袖に軽 かろ い後悔秋の朝
4	幸 さい せにならないはずの ない 月夜
5	方丈の底に憩ふ秋暑 あきあつ し
6	秋冷や弾痕印すひと柱
特	一振りの塩とて粥のよき残暑 ざんしよ

選句用紙

選者名

山崎 たか

1	秋出水 ^{あきみづ} 生きゆくための水ならず
2	一振りの塩と弱 ^{よわ} のよき残暑
3	砂の紋 ^{いざな} 澄 ^{すみ} めり白露の禪の寺
4	勝ち虫 ^{かちむし} のつかずはなれず夜の秋
5	五 ^い のこ草 ^{くさ} たれか寝 ^ね をめたる風日和
6	方丈 ^{ぼうじやう} の底 ^{そこ} に憩 ^{やすみ} ふ秋暑 ^{あきあつ} し
特	露 ^{つゆ} 天湯 ^{てんとう} に溶 ^と かす残暑 ^{ざんしよ} の気怠 ^{けだ} さを

選句用紙

選者名

山本わこ

そうそう

1	宮跡に鳥の駈々しき残暑
2	棉 ^め 吹くや五 ^た 口子の白齒の生え初むる
3	金風や大方丈を抜けて空
4	畦切りの鋤 ^く 一振や落し水
5	遠景の塔より高し秋桜
6	枝垂れ地に触れて先よりひらく萩
特	おのが葉へ光返せり秋茄子

選句用紙

選者名 山本 打法

特	6	5	4	3	2	1
バス停に自前のベンチ秋暑し	子ら帰りました老 おい 二人今朝の秋	秋暑し臨同肩で息をして	端座して夏を見送る奥座敷	残暑なお踏 たふ 鞆 たづ をふんで鉄臼、フ	ヨレヨレのＴシャツ捨てる残暑かな	南柯誌に付 つ 残暑の姉 は の部屋

選句用紙

選者名

関洋子

1	棉 ^{わた} 吹くや吾子の白齒の生え初むる
2	無軌道に街をさまよう残る蟬
3	今日処暑に暦ばかりが先行す
4	白桃の産毛 ^{うぶげ} 確め一つ買う
5	髪 ^{かみ} 切りてなほ余りある残暑かな
6	砂の紋澄めり白露の禪の寺
特	秋蟬や生家 ^{せいけ} 無人にして帰る

選句用紙

選者名

米田 よし

1	宮跡に鳥の騒々しき残暑
2	夕暮を背負ふ通天閣の秋
3	川はさみ向かふは它地豊の秋
4	虫の音や老むたる耳に遠かりき
5	残暑なお斑鳩の寺畦道も
6	新聞紙字面も滲む秋湿り
特	新涼や墨痕著き書道展

選句用紙

選者名

宮本二馬

1	黙まどは徒歩が迷ひし残暑かな
2	夕暮を背負ふ通天門の秋
3	国見鶏に月は終つて明日は晴
4	秋還りハの字々々なるネオノ節
5	目染の目玉をされて秋暑し
6	とまりせて吸はれるままに蚊の博士
特	壺り切れの張り紙ひとつ秋の暮れ

選句用紙

選者名

富野 尚次

1	髪切つてなほ余りある残暑かな
2	目黒の目玉をそめて秋暑し
3	遠景と塔より同じ秋桜
4	秋蟬や生家無人にして涼の
5	幸せにはいらなはずのなつ月夜
6	沈黙の残暑にふける残暑かな
特	秋湿りパのふかたにちるネオ管

選句用紙

選者名 真一

特	6	5	4	3	2	1
ケセラセラ為す術もなき残暑かな	台風やありがたき水怖き水	夕暮れを背負ふ通天閣の秋	去りゆきし人の足音 あしおと 秋彼岸	幸せにならないはすのな月夜	風といふ残暑見舞ひを纏ひけり	待ち人來たらず虫の声うるさい

選句用紙

選者名

上田秋霜

1	目薬の目玉をそめて秋暑し
2	草丈の低きあたりも秋の風
3	大糸線暮れ行く空は蕎麦の花
4	宮跡に鳥の騒々しき残暑
5	畦切りの鋤一振や落し水
6	陂深き不動明王天高し
特	残暑なお踏鞴を踏んで鉄匂う

選句用紙

選者名

二 飛

10	9	8	(特)	6	5	4	3	2	1
			子を引く手とぎに緩みて残暑なお	土壁の家に住み及て障子貼る	虫鳴いて心の闇に共鳴す	残暑なお踏鞴 ^{ふたとう} を踏んで鉄包う	南柯誌に付箋残暑の地の部屋	新聞紙字面も滲む秋暈り	目薬の目玉をそめて秋暑し

選句用紙

選者名 ひろし

1	見送りの母の速さで盆とんぼ
2	あの人の名前出てこぬ夜長かな
3	秋 ^{あき} 微雨 ^{こもり} 軒 ^{のき} 間の草は奔放に
4	草丈 ^{くさたけ} の低きあたりも秋の風
5	暗闇 ^{くらやみ} の叢中 ^{そうちゅう} に虫時雨
6	売切れの張り紙ひとつ秋の暮れ
特	虫鳴いてべの闇と共鳴す

選句用紙

選者名

友澤一途

特	6	5	4	3	2	1
残暑とふ葉書の主の逝きてをり	先祖みなびしは濡れにして暮洗ふ	勝ち虫のつかずはなれず夜の秋	獣除け門 いんぬき を差す秋の山	秋暑し臨月肩で息として	一振りの塩とて粥のよき残暑	いつもより飛機高くいて秋燈めり

選句用紙

選者名 白井桃紅

1	バス停に自前のベンチ秋暑し
2	枝垂れ しだ 地に触れて先よりひらく萩
3	マイホーム牛 うし 牝 め く丘の流れ星
4	稲光 いなひかり 手品師の手は動かさる
5	子を引く手ときに緩みて残暑なほ
6	秋近し汚れ厭 いと はぬ室外機
特	今日処暑に磨 こ ばかりが先行す

選句用紙

選者名

かり
ひん
子彦

1	マイホーム ^{ひしめ} 牛 ^め 牯 ^め く丘の流れ星
2	秋蟬や生家無人にして歸る
3	草丈 ^{くさたけ} の低きあたりも秋の風
4	子と引く手とときに緩めて残暑なほ
5	爽秋 ^{しんあつ} の飛鳥 ^{しやう} 美人の笑み増して
6	秋暑し臨月肩ひ息として
特	金風や大方丈と抜けて空

選句用紙

選者名 福田洗弥

1	幸せにならなはいはずのない月夜
2	大糸線暮れ行く空は蕎麦の花
3	秋蟬や生家無人にして帰る
4	マイホーム牛牝の丘の流れ星
5	一振りの塩とて鵜のよき残日者
6	携帯も傘も何処へ木句の秋
特	秋の声盆の中夫の声

選句用紙

選者名

近藤和卓

特	6	5	4	3	2	1
急のこ草たれか褒めたる風日和	秋湿りパの字欠けたるネオン管	白桃の産毛確かめ一つ買う	獣除け門 かんぬき を差す秋の山	稻光手品師の手は動かざる	残暑なほ踏鞣 フミエラ を踏んで鉄匂う	畦切りの鋤一振や落し水

49

選句用紙

選者名

青山

特	6	5	4	③	2	1
	並 ばつひつ のちまの三句 死期問 山		たぐひ ひさし ぬえに 上	先祖 みな びし ぬえに て墓を 洗う		たぐひ ひさし ぬえに て墓を 洗う

たぐひひさしぬえにて墓を洗う

選句用紙

選者名 梅句

特	6	5	4	3	2	1
おのが葉へ光返せり 秋サ加子	子等帰りまた老二人今朝の秋	白桃の産毛確かめ一つ買う	行灯 あんどん に人の揺らぎや地藏盒	残暑なお躑躅 たむけ を踏んで鉄白う	大糸線暮れ行く空は蕎麦の花	とまらせて吸はれるままた蚊の博士